

「factoRe100」プロジェクト始動 - 小松マテレーの国内工場を再編 -

小松マテレー株式会社（本社：石川県能美市、代表取締役社長：中山大輔）はこのたび、国内の全ての生産工場を対象に、持続的な発展を支える次世代型の工場群への再編を実現させるためのプロジェクトとして「factoRe100（ファクトーレ 100）」を立ち上げます。

「factoRe」とは“factory”（ファクトリー＝工場）に Reform（リフォーム）や Redesign（リデザイン）等の接頭語“Re”を組み合わせた造語です。こうした工場再編に関わる多様な要素を包括する「factoRe」に創業 100 周年にむけた当社の想いを込めて、本プロジェクトを「factoRe100」と名付けました。



「factoRe100」完成予想図 ※末尾に各工場の役割を解説。

■ プロジェクトのねらい - 「factoRe100」がめざす未来 -

「factoRe100」プロジェクトは、単なる設備更新や工場のリプレイスでなく、当社が具体的な将来像を描き、どのような価値を社会に提供し続けられるかを、ものづくりの現場から問い直す挑戦と位置づけております。

当社の工場は、長年にわたり日本の繊維産業を支えてきた一方で、時代の変化とともに設備の老朽化のみならず、生産体制が複雑化し人手不足が表面化するなど、課題が顕在化するようにな

りました。これらを単なる「問題」として捉えず、当社に与えられた“進化の起点”であるとの認識のもと、「factoRe100」プロジェクトを立ち上げるに至りました。

当社において 80 余年にわたり受け継がれてきた匠の技や素材への深い理解とこだわり、現場で磨かれてきた感性を次世代へとつなぎ、次なる世代が「ここで働きたい」「この仕事に挑戦したい」と発したくなるような、当社の想いが詰まった未来の工場を目指します。「factoRe100」は未来に向け、「働くことそのものが企業価値になる工場」をねらいとしています。

■ 基本構想

本プロジェクトでは、次世代素材や環境配慮型の生産、省人化・自動化、DX の推進を通じて、生産性と環境価値を両立させた持続可能な工場群の構築を目指します。同時に、当社にとって極めて大切な「人」にもこだわり続けます。DX 化やオートメーション化は「人」の力には及ばず、容易に「人」に代えられるものではないと当社は考えております。

さらに、“古く”とも価値のある、価値を生み出せる「設備」も構想に加えます。こうして「設備」とデータを最適に組み合わせ活用し、「人」の可能性を最大限引き出せるような、当社でしか実現できない工場再編へのプロジェクトを描いています。そして「factoRe100」プロジェクトを、当社に蓄積されてきた「匠の技」と「感性」を調和させ、一語で言い表すならば『ローテク×高感性』により双方の融合による創造力を発揮していくための土台づくりとしても捉えております。

また、本プロジェクトは長期的に企業価値を創造していく観点からも重要な意味を持ちます。「factoRe100」をベースに安定的な供給力を強化し、収益構造の高度化を図り、グローバル連携を推進していくことにより、変化の激しい時代においても社会から求められる企業基盤を築いてまいります。

■ プロジェクトの主要項目

「factoRe100」プロジェクトでは、事業特性や役割に応じた工場群の再編を行います。次世代型工場群の実現を目指し、以下のとおり主要 5 項目を提示しこれらを有機的につなぎ合わせることで、当社独自の生産ネットワークを構築し高度化を図ります。

1. 革新的工場として次世代素材に対応

スパイバー社のブリュード・プロテイン™や、バイオワークス社の PlaX™ (PLA 繊維) に代表される新規次世代材料や天然由来の再生繊維など、石油資源に依存しないサステナブルな素材の開発および社会実装を見据え、北陸産地以外の日本の様々な繊維産地との技術融合をも視野に入れた生産拠点。

2. 高効率型工場として既存商品群を最適化

品質、リードタイム、コストの観点から生産工程を再設計し、ムリ・ムダ・ムラを排除した生産性と収益性を高めた高効率工場。

3. 次世代型“エコファクトリー”を実現

欧州のエコデザイン法に代表される「大量生産・大量廃棄」からの脱却と節水、省エネルギーに貢献する製品染めなどを含む、環境配慮型の生産拠点。

4. マザーファクトリー機能を強化

海外の提携工場と連携し、必要な技術開発や量産安定化技術の移転・支援を担う中核拠点。

5. 関連技術の開発と商品化

当社開発の炭素繊維複合材料「カボコーマ」や生産工場から排出される余剰汚泥を最大100%削減できる革新的な技術「ベリフォーマー」の商品化に向けた生産・開発拠点。

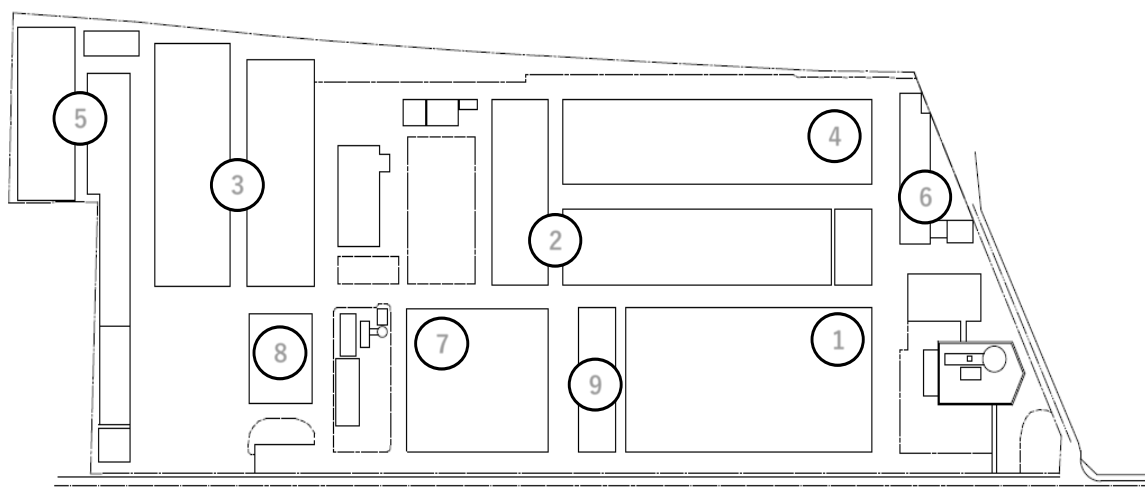
■ 総工費

約 300 億円～ （現在見通し）

■ 将来構想

「factoRe100」は、2043年に迎える創業100周年をプロジェクト完遂のゴールとしています。本プロジェクトは段階的に工場群とものづくりの進化を実現していく長期構想であり、将来構想として3～5年ごとに新構想および新工場を立ち上げていく計画としております。

【解説】「factoRe100」を構成する工場群



①次世代素材/非石油系素材対応工場

ブリュード・プロテイン™や PlaX™などの新規次世代素材や、当社にとって新たな取り組みとなる天然素材及び天然由来再生繊維素材を取り扱う革新的な工場。

②③高効率生産を実現する次世代型工場

海外拠点と連動したマザーファクトリー機能を持ち、ポリエステル、ナイロンを中心に既存素材を生産性、リードタイム、コストの面から高効率化を目指した次世代型工場。

④次世代型エコファクトリー

製品染めや節水・省エネルギー加工を行う環境配慮型のエコファクトリー。

⑤付加価値加工専門工場

染色工程以降の“コーティング”や“ボンディング”などの付加価値を付与する加工を行う専門工場。

⑥関連技術の開発・生産工場

カボコーマやバリフォーマーなどの関連開発商品群の開発と生産を担う工場。

⑦総合物流センター

製品の梱包、在庫、出荷配送を総合的に行う立体倉庫型の物流センター。

※既設の「第2物流センター」は主に生地を保管する一方、新設の「総合物流センター」は製品の在庫・梱包・配送を行う役割を果たす。

⑧研究開発センター

将来に向けたシーズ開発から、既存技術のブラッシュアップ及びニーズ探求まで網羅する機動性の高い技術開発拠点。

⑨ファブリウム

当社のこれまでの歴史を綴る、技術と感性が融合した総合プレゼンテーション施設。

<本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先>

小松マテレー株式会社 総務部 広報課 TEL : 0761-55-8070 / FAX : 0761-55-8101